

明治期刊行海図の表題の変遷について (その2 完) (海図番号401~1021)

中嶋 暎：航法測地課

Title Changes of Japanese Navy Charts in Meiji Era (Part 2, completed) (Chart Number 401~1021)

Tei Nakajima : Geodesy and Geophysics Division

水路部技報12号に(その1)として海図の表題の変遷について報告後、水路部図書館の奥に残存の貴重な資料を見付けた。開業から大正13年末までの刊行海図について、番号、図名、刊行年月、新改版また覆版の別、調査時点の当該海図の残存有無を調べて、罫紙にペン書きで表にした資料で、「自明治□年至大正十三年 水路部刊行海図調 原備掛」(□は欠字)と墨書した和紙で綴じてある。調書の初頁の、完成時の供覧印や「昭和六□十月現□」という書き込みから、調書完成は昭和6年の後半である。昭和の初めに昔日を顧み、明治初年から大正13年12月までの刊行総数は3,060枚とまとめている。

この調書は明治期海図の刊行状況を変遷表にまとめるのにまた修正確認に有効だ。12号の変遷表の修正は年月など時間についての修正が多くて、正誤表では追従出来ぬ程である。修正を施した変遷表を筆者がその時点で分かった正しさに維持し続け、連絡を頂けば修正済の表を渡すことで道義的責任を取らせてもらいたい。今号の変遷表は、前号に記した参考資料のほか、上記の「海図調」と国会図書館が保存する各年刊行の「図誌目録」を使った。目録の概要は次のとおり。

明治20年と27年は目録を刊行したかどうか不明。
19年、21年、22年は「刊版海図水路誌目録」。23年、24年は「刊行図誌目録」。25年、26年、27年、28年、29年、30年、31年、32年、33年、34年(四枚の海図索引を登載)、35年(前年同様海図索引を登載)、36年3月(海図索引は32年5月出版と記載、以降

毎年索引は登載される)、36年10月、37年(海図索引に海図番号付与)、38年、39年、40年、41年3月、42年、43年、44年、45年は「刊行水路図誌目録」。19年のみ水路部保存。18年刊有するというも未見。

前号と今号で明治期の海図表題の変遷の概略が示された。従来は図誌目録と索引図を使って海図の複製刊行状況が認識されたが、新しく番号毎の海図表題の変遷を時間列に並べる整理法でまとめたので、変遷表を有効に使うことができれば幸いである。この表を作成する過程で、国立公文書館が保存する明治初期の海軍海図を閲覧できた(明治12年末まで)ので、その実態を以下に報告する。

この保存海軍海図は明治時代洋装図書分類目録に五群に別けて整理されている。その整理上の函数は五群共通で558函、その号数が五群あって、88号が明治7~31年刊行のもので鋪数220鋪、88A号は明治7~25年で54鋪、88B号は明治7~24年で9鋪、88E号は明治17~大正12年で49鋪、88D号は明治9~43年で44鋪よりなる。これらの図の多くには「外務省図書記」という大型の角印が表裏中央に押され、外務省、内閣文庫、公文書館と渡ったものである。88号、88A号、88B号は保存の良いものが多い。88E号は見ず。88D号は丸めでの保存が多く、裏打ちの剥がれや虫食いが多いが、他の号群にない時期の古い図も含み、時期の新しい図では裏打ち無しが多い。

そのほかに水路部所蔵の大日本海岸実測図とは異本の大日本海岸実測図が、特77乙函1号として保存されるも、損傷甚しとて閲覧できず。

変遷表によれば、多少の出入りはあるがほぼ年代を追って順に海図番号をつけて海図が発行されている。明治11年頃から改版が目立ってくるが改版図はこの明治初期の海軍海図の実態報告には含めなかった。当時の補刷の頻度は不明だがそれほどの頻度ではなかったであろうことから、取り上げた海軍海図は一部のものを除き図に記載されている刊行時期に印刷発行されたものと推定した。また刊行時期が図載されていない極く初期のものもほとんどは変遷表の刊行時期に印刷発行されたものと推定した。つまりいずれの場合も変遷表の刊行時期を推定発行年月とした。さて明治初期は後世以上に覆版の事実を憚り例えば覆版図にはローマ字図名を入れぬ一方で、オリジナル測量による海図のみを公表するなど、両者の間で扱いを違えている。外地の覆版海図はそのような面からも貴重で、慎重に検討する必要がある。以上の観点で保存海軍海図について個々の図の刊行時期を示唆する要素を整理表としてまとめた。その要素の主なものについて次に述べる。

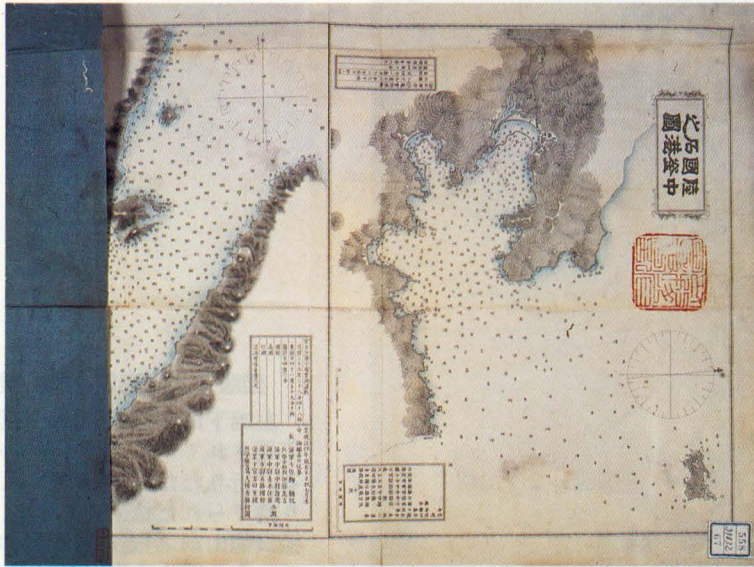
☆朱色縦長角印と海図の定価——保存海軍海図の初期のものには、定価〇〇銭と縦長の囲み角印が、海図の裏面の裏打ちのハトロン紙様の紙の上に押されているものが多い。定価は、後に海図の表面に水路部印章が刷り込まれるようになると、この印章の下側に印刷されるようになる。水路部印章と定価の表示の様子は日本水路史の口絵F16の東京海湾図を参照されたい。口絵の東京海湾図は、図版3（海図第9号東京海湾図）の後年の補刷物で、ローマ字図名や水路部印章等の追加補入に注目されたい。実際の朱色縦長角印の様子は、図版1（海図第3号釜石港・宮古港之図）の青色部の右下、図版2（海図第19号那覇港之図）の青色部の右下、図版4（海図第9号東京海湾図）の右下に見られる。角印と言ったが囲みの上辺下辺は丸みを帯びている。整理表の右から7番目の列に角印の有無をまとめた。海図番号20までは角印の見られるものが多い。海図番号23から41までは角印も押されず印章も刷り込まれていない。このことは角印を押して定価が表示された時

期の後に、定価を表示しなかった期間があった可能性がある。しかし角印が見られぬ海図も、本来は角印が押されながら、後日折りたたんでの保存のための表装を施すために角印の押された図端が裁断されて切り捨てられて、現在は角印無しになっている可能性もある。半分に切れた角印も見られることから後者の可能性のほうを筆者は予想する。その後海図番号42以後は印章が刷り込まれ、印章の下に定価が表示されて、定価が海図の表面に明示されるようになる。印章の刷り込みは早いものでは明治8年から見られる。

水路部沿革史付録・上の明治10年の条に、10年末現在、覆版海図を除いた局板海図の目録が載せられ、10年定価も記してある。整理表の右から4番目の列にその値を示した。右から5番目の列には角印または印章による表示定価を示した。表示定価は10年定価とよく一致する。ただし第3号や第13～16号などの貼合海図の場合は貼合の手間が入るからか高いようだ。

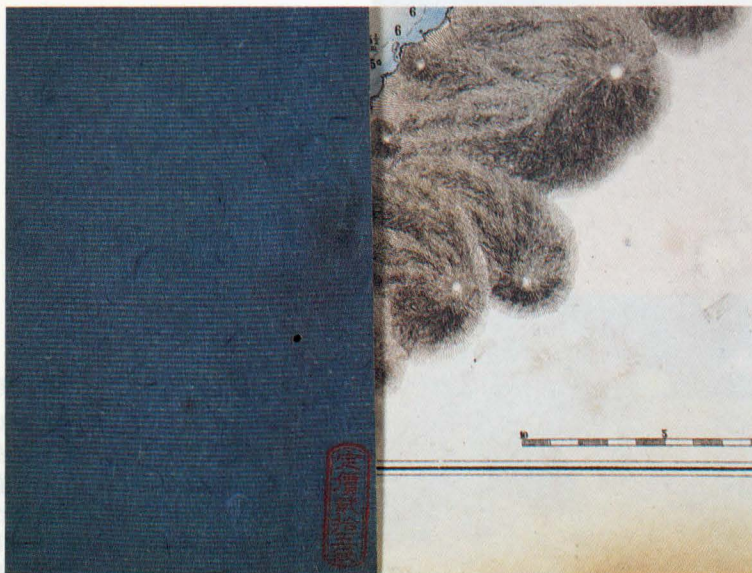
この明治初期の定価は10年定価と変わらず、未改版で存続した海図では19年までも変わらなかった。日本水路史によれば、明治5年から定価を定め販売人を立て、水路部直売もやったという。一般の利用は大変少なく、役所間は今と同じで融通し合っただであろうから、水路部が直売のために角印を押した海図が役所間の融通で移動後残存したものと推定される。

☆青色ハトロン紙様の紙による裏打ち——海軍海図の用紙は、明治中期以降のフェルト状の厚い洋紙とは異なり、それほど厚くない洋紙が使われている。海図用紙のことは措いて、よく分からぬなりに、青色の裏打ち紙について記載する。保存海軍海図の中には寒冷紗で裏打ちされた図や、何ら裏打ちのされていない図がある。しかし閲覧した時期のものは、青色のハトロン紙様の紙で裏打ちされた図が多い。この裏打ちは図版2に見るようにケバ立ちのある青色の紙でなされている。この紙は幅約1mmのやや透明な部分と不透明な部分が、横目方向に交替するも



図版1 海図第3号 釜石港・宮古港之図の貼合図の表面・裏面

左端約1/8の青色部は、ハترون紙様の紙で裏打ちされた海図の裏面を、保存のための折り目で折り返して示したものである。青色部を左に返せば縦長の宮古図となり、釜石図は横長である。青色部の右下端に朱色縦長角印。国立公文書館所蔵の〔海軍海図〕558函88号35鋪（明治時代洋装図書目録の整理番号）より複写。約1/14.4に縮小。



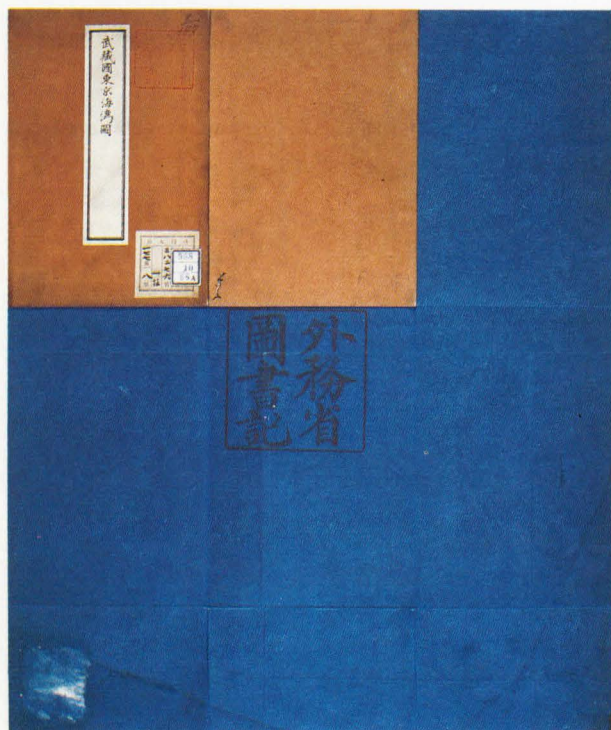
図版2 海図第19号 那覇港之図の表面・裏面の部分

左半の青色部は裏打ちのハترون紙様の紙。図版1より拡大されているのでハترون紙様の左右の縞目が明瞭。またその右下に朱色縦長角印。定価24銭と読める。国立公文書館所蔵の〔海軍海図〕558函88号87鋪（明治時代洋装図書目録の整理番号）より複写約1/1.8に縮小。



図版3 海図第9番 東京海湾図の表面

左端下部に縦書きで、海図番号と銅刻者名が印刷されていて、辛うじてその内容が読み取れる。折りたたみ保存のため、この左端部分が切り捨てられた結果であって、縦書きの「第九番松田龍山刻之」との印刷は、右半分ぐらいに細っている。国立公文書館所蔵の〔海軍海図〕558函88A号10鋪（明治時代洋装図書目録の整理番号）より複写。約1/5.7に縮小。



図版4 海図第9番 東京海湾図の裏面

青色のハترون紙様の紙による裏打ちと折たたみ保存用の表装の様子が分かる。左下には何らかの貼付物をはがした痕跡が見られる。右下の角近くには朱色縦長角印が右半部を切られて部分的に残存する。裏打ちし定価を印示した後に、折たたみ保存のために裁断されたことが分かる。図版3の左下の裏面が、この図版4の朱印の付近に当たる。国立公文書館所蔵の〔海軍海図〕558函88A号10鋪（明治時代洋装図書目録の整理番号）より複写。約1/5.7に縮小。

ので、今で言うハトロン紙と考えられるので、「青色のハトロン紙様の紙」と表現した。

紙の博物館での聞き取りによれば、ハトロン紙とは一種の透かしを縞目に入れたもので、明治10年頃では未だ国産ハトロン紙は無かったのではという。糊付けが剥がれ分解しかかった海軍海図を偶々閲覧できた時の観察では、海図本体の裏面に薄い美濃紙様の和紙を先ず貼り、その上に青色紙を貼っている。この青色紙の大きさはB4大で、それほど大きなものでなく、約5mmの重なりで貼り繋げて大きな判とされてから、海図に裏打ちされていることが分かった。これに関連して、水路部沿革史附録・上の明治9年の条の、水路部各課仮章程なる事務規定の中の「製図課月次報告要目表」という表には、「裏打」なる欄が見られ、章程の18条には、「裏打出来の上」と書かれ、さらに明治12年の作業規則の海図課の条には、「刷版後表装迄」とあり、裏打ち・表装などの作業を水路部内でやっていたことが分かる。

当時の英国のやり方が報告されている。Day (1967) が資料として引用する、1861年の英国の海図代理店向けの回章では、その第2項に、「海図は裏打ちし、ラベルを付し、灯色を差して供給する。裏打ちのための費用は取らぬ」とある。この英国の裏打ちは麻布かも知れぬが、英では水路部で作業を仕上げて渡すとしており、これを日本も做ったか。水路部沿革史によれば、日本水路部は開業当初はイムレーその他の私会社版の緑背海図 (blue-back) を官板と誤解して多量に買っているが、この緑背海図を真似た結果が青色ハトロン紙様の紙の裏打ちとなったのではと言いたい。Howse & Sanderson (1978) によれば、緑背海図とは、19世紀になって人気の廃れた海図帖に代わって必要な個々の海図を丸めて保持する方式が普遍化したことに応じて、19世紀末まで英国で商船に好んで使われた私会社版海図で、航路沿いになるべく少ない数の海図を使用して航行しようとして、海図のサイズを大変に大版にし、広域を包含させるためにその縮尺を数十万から数百万分の一と小縮尺にし、多数の港泊図を分図として入れ

込んだもので、長さが6ftを超えるものも珍しくなかったという。この英私会社版の海図は青色紙で裏打ちされたので Blueback といわれ、日本では緑背海図と訳された。Luymes (1931) は緯線・経線方向の航路での緑背海図の有利さを述べている。

保存海図への青色紙の裏打ちの下限は、整理表では海図番号88まで、つまり明治10年中頃までと読める。しかしそれ以降についての整理表の資料は外地の図であったり、水路部蔵のずっと後年の図であったり、閲覧できぬ資料であったり、年代の下限の説得性は低い。むしろこの頃の発行図で残存するものの少ないことを示すか。

☆神武・明治の使用、水路寮・局の使用——整理表右から12番目の列に、図廓外の英文中の発行年表記に使われた Jinmu と Meiji の別を示した。明治7年頃から8年終り頃まで神武が使われ、以後明治が使われている。一般の「神武」の導入顛末と関連させて検討すべきである。

整理表右から9番目の列に、図廓外の和文中の組織名表記での水路寮・局の使い分けをまとめた。水路業務開始から明治5年11月までは組織名は水路局だから、開始時数図の海図は水路局名で発行されたはずだが、それらの海図には組織名の表記はない。その後明治5年11月から水路寮と名のり、9年9月からまた水路局に戻っている。整理表に見るごとく組織名は9年中頃を期に寮から局へと使い分けられている。印刷工程の性格上この頃から既に図載発行時期と実発行時期のずれはあろう。

☆手彩色——上述の Day (1967) の引用する資料では、英水路部での灯色の彩色を言っているが、整理表の右から2、3番目の列に海軍海図での彩色結果をまとめた。灯色の彩色は一図のみに見られ、利用者が自分で手差しするものだったかもしれない。一方水色は半数近くの図に施され、水部と陸部の境から始めて沖の方向に手差しでぼかす見事な図も見られる。ぼかしは二度差しとみえる筆跡のものもあり、相当に手間がかかっている。しかも干出堆と本陸の紛らわしい地紋表現にもかかわらず、間違うこ

となく水色が差されている。水路測量・海図作製の専門家の指示の下での作業と考えられる。部内で定常作業として色差し後外部に供給したのであろう。

☆海図番号洋数字表示——整理表の左から14番目の列に、図廓外の「No.□」の表示の有無を示した。明治8年末から書き込まれると読み取れる。外地では、略測であってもオリジナル測量を加えたものには番号を表示しながら、内地の略測図には表示しなかったようだ。

以上刊行時期を示唆する要素について簡単に私見を述べた。このような作業を行なうに部外諸機関の資料を広く深く渉猟検分することの難しさと自分の非力を痛感した。井中の蛙から一步脱して外界を垣間見ることが出来たことを喜ぶとともに、これからの情報化の時代にあっては、当部からのそれなりの資料の公開が必要なこととそのための準備が必要なものも痛感された。

参 考 文 献

水路部編：水路部沿革史，水路部発行，pp.465，(1916)

水路部編：水路部沿革史付録・上，水路部発行，pp. 655，(1916)

Day, A. : Admiralty Hydrographic Service 1795-1919, HMSO, pp.378, (1967)

Howse, D. & Sanderson, M. : The Sea Chart, McGraw-Hill, pp.144, (1973)

Luyms, J. : The Blueback, I. H. Review, Vol.13, No.1, 33-38, (1931)

刊行時期を示唆する図載記事の有無や内容の整理表

〔国立公文書館蔵の海軍海図のうち明治12年末までに発行されたものについて海図番号順に一番古そうな海図を閲覧して整理した結果である。ただし特77乙-1が閲覧できぬため水路部蔵の日本海岸実測図を一部参考にした。〕

Table with columns for map number, title, and various publication details. Includes sub-sections for '海図番号' (Map Number), '朝鮮全図' (Korea Map), '廈門港之図' (Xiamen Port Map), '台湾南部' (Southern Taiwan), '膠州灣並芝罘港之図' (Jiaozhou Bay and Zibo Port Map), '吳淞江口甬江口' (Wusong River and Ningbo River Mouth), and '不臘達斯礁脈銅山港' (Buladashan Reef and Mt. Copper Harbor).

第9表 海図番号 401~450

明治	(1900)	35	(1905)	40	(1910)	44	明治				
401			シ37-5 吳淞江一名黃浦	シ38-3 閩江	シ41-6	シ42-4	401				
402	シ33-11	新嘉坡本海峡	シ38-1 288から	閩江	シ41-10	シ44-4	402				
403			シ37-12 トロ港及附近諸諸地		シ40-2 288から	碓石灣	403				
404	シ38-4	揚子江諸分図第2	シ37-2	シ38-1			404				
405			シ38-1	シ38-1			405				
406					シ42-5 306から	金星門港	406				
407	シ32-10	浦戸至足摺埼	178へ	シ38-1 289から	シ39-7		407				
408	シ32-10	雄勝灣至岩井埼	シ38-6	三州灣			408				
409	シ32-11	氣仙沼灣至大槌灣	シ37-12				409				
410	シ32-3	西江第3	シ37-12		シ41-12	灣竹洲至ブラザース角	410				
411	シ33-1	パラセル群島					411				
412			シ37-4 331から	西江第2			412				
413	シ33-3	ダイヤモンド角至ベララ島			シ40-7		413				
413コウ					シ41-10	黃浦至廣東第1	413コウ				
413キツ					シ41-10	黃浦至廣東第2	413キツ				
414	シ32-11	カビテ港	シ35-10		シ40-8	廣東港	414				
415					シ40-11	珠江三角州	415				
416			シ38-4	南了東水道			416				
417			シ38-3	アバーディーン港			417				
418			カ38-10 277から	三都澳及附近			418				
419コウ					シ40-6	香港東部	419コウ				
419キツ			シ38-1	香港西部	シ41-7	シ41-10	419キツ				
420	シ33-11	アチェー頭至ダイヤモンド角	カ38-6 288から	香港附近	シ41-5	香港島	420				
421					シ41-11		421				
422			シ37-7 300から	香港	シ41-2	シ41-11	シ42-11	422			
423			シ37-1 325から	珠江一名廣東河第1	シ38-4		シ42-9	423			
424			シ37-1 327から	珠江一名廣東河第2		シ41-10	シ41-12	424			
425			シ37-1 328から	珠江一名廣東河第3		シ41-10		425			
426			シ37-1 329から	珠江一名廣東河第4	シ39-3		カ41-10	426			
427			シ37-1 330から	珠江一名廣東河第5	カ38-5		カ41-10	427			
428	シ34-1	シェン、ムン至トラ、コ島			シ41-1	スターリング灣及附近	428				
429			シ37-2 202から	白河第1	カ38-5	白河一名北京河第1	シ39-8	シ40-3	429		
430			シ37-2 203から	白河第2		白河一名北京河第2		430			
431	シ33-5	カムラン灣ブロン口灣	シ37-2 314から	白河第3				431			
432			シ37-2 315から	白河第4				432			
433	シ33-12	暹羅海灣第5	シ38-6	大鵬灣及附近	シ39-12	297から	シ41-11	香港至大鵬灣	433		
434	シ33-12	暹羅海灣第4	シ38-6	大鵬灣	シ39-12		シ41-12		434		
435			シ38-1 289から	廈門内港	カ40-5	廈門内灣		435			
436	シ34-1	暹羅海灣第2	シ38-9	廈門外港	シ39-6			436			
437	シ33-1	暹羅海灣第1	シ38-8	廈門港及附近	シ39-6		カ40-3	437			
438	シ32-9	菲律賓諸島諸港第2	シ37-8	菲律賓諸島諸港第2	シ38-6	442から	廈門港及附近	カ40-3	438		
439			カ37-8 270から	温州灣至菲山列島	シ38-7		シ41-2	シエルター港及ロッキー港	439		
440	シ32-11	マクレスフィールド礁	149へ				シ43-4	馬尾至福州府	440		
441	シ32-8	茂浦港附近	シ38-6	菲山列島至揚子江	シ39-1	シ40-2	441Aへ		441		
441A						シ41-10	441Aへ		441A		
441B						シ41-10	441Bへ		441B		
442			シ38-1 22から	廈門港	シ39-10		シ42-6	菲山列島至揚子江	442		
443			シ37-12 290から	兄弟嶼至鳥丘嶼	シ39-8				443		
444			シ37-8 282から	甬江附近	シ39-5		シ41-3		444		
445	シ38-8	ファン、ラン灣至安南海灣	シ37-8	温州港及附近	シ38-6		シ42-10		445		
446	シ35-12	柴棍河至カム、ラン灣	シ37-6	鳥丘嶼至東引	シ37-6		シ41-2		446		
447	シ35-9	キ、キク灣及附近沿岸	シ37-6	羅星島錨地及附近	シ38-2	シ39-6	シ39-11	シ41-9	シ42-5	シ44-12	447
448	シ34-1	婆羅西北岸第4	シ37-6	海壇海峽					448		
449	シ34-1	婆羅西北岸第5	シ37-6	海壇海峽狭部					449		
450	シ34-1	婆羅西北岸第3	シ37-6	紅日乱形二島間ノ水道	シ40-1	紅日、ラゲッド二島間ノ水道			450		

第10表 海図番号 451~500

明治	(1900)	35	(1905)	40	(1910)	44	明治
451	シ33-6	支那海諸礁		*			451
452	シ33-7	海南島南岸諸港灣					452
453		シ35-10	海口灣				453
454	シ33-3	プロコンドル群島			729へ	41-4 310か5	454
455		シ35-12	クールベール港附近				455
456		シ35-3	チャム島				456
457		シ35-11	海防附近		727へ	41-7	457
458			シ37-6 61か6	定海港及附近			458
459		シ35-5	安南海湾諸港諸地				459
460	シ33-2	マシンロック及マタルビ			40-12		460
461	シ33-2	忍耐岬至海豹島					461
462		シ36-3	キン、ホン港、許愛河口		シ39-5		462
463	シ33-9	枝幸至岩内	41へ	シ37-11	銅山港至浮頭灣		463
464		シ35-11	柴棍河一名ドン、ナイ河	シ38-1	柴棍河一名ドン、ナイ河附近	40-12	464
465	シ33-3	岩内錨地及附近	シ34-6	シ37-12	支那海岸諸錨地	シ42-8	465
466			シ37-5 279か5	泉州港	シ39-6		466
467			シ37-8 33か6	團頭及深瀝灣			467
468		シ35-11	フェン灣及ク、モン港		シ39-5		468
469		シ35-3	カム、ラン灣	717へ	シ38-2	シ38-7 293か5	469
470		シ35-10	トロン島至カムプト附近		743へ	41-10	470
471		シ35-9	暹羅海灣諸分圖	736へ	シ38-8 271か5		471
472	シ34-10	暹羅海灣第3	733へ	シ38-6	象山浦至甬江	シ44-7	472
473		シ36-5	盤谷河一名、眉南河	738へ	シ38-8 274か5		473
474	シ34-10	コー、シチャン港	739へ	シ38-1	三門灣及び石浦港	シ40-9 294か5	474
475	シ34-9	ラコン泊地至タネ角	740へ	シ38-8	南澳島	シ42-7	475
				シ41-7 295か5	仙頭港		
476		シ35-6	カバス島至ラコン泊地	741へ			476
477		シ35-6	暹羅海灣	737へ	シ38-8 276か5		477
478		シ35-8	クァンタン河口、パハン河口、ルムピン河口	744へ	シ38-2		478
479							479
480		シ35-12	リオ海峡				480
481		シ35-3	新嘉坡至子オマン島				481
482		シ35-7	新嘉坡海峡				482
483		シ35-3	ツリアン、スギ及チョンボル諸海峡				483
484		シ35-5	ベラク河附近				484
485		シ36-2	ヂンヂン諸島及水道				485
486		シ36-3	ベナン港				486
487	シ34-5	ベララ島至ラチャド岬			636へ	41-4	487
488		シ35-5	プタン群島至ベララ島				488
489	シ33-11	クラン河口		シ36-3	揚子江	シ40-1	489
490			シ37-3 281か5	揚子江南方附近	シ40-5	シ40-10	490
491			シ37-2 280か5	揚子江口附近	シ41-10	シ42-4	491
492	シ34-2	麻刺加海峡諸錨地	621へ	シ37-9	揚子江上流諸港	シ43-10	492
493			シ37-6 312か9	揚子江上海至南京	シ42-7	シ42-12	493
494			シ37-4 318か5	揚子江南京至東流	シ42-4	シ44-6	494
495			シ37-2 319か5	揚子江東流至漢口	シ43-1	シ43-11	495
496			シ37-2 320か5	揚子江漢口至岳州府	シ43-3		496
497			シ37-3 321か5	揚子江岳州府至キ州府	シ41-6		497
498	シ34-2	ラチャド岬至ウダン島	623へ	シ37-7	漢口	シ42-8	498
499			シ37-4	揚子江諸分圖第1	シ43-7	シ44-7	499
500			シ37-2 348か5				500

第11表 海図番号 501~550

明治 (1900)	35	(1905)	40	(1910)	44	明治
501		ヘ37-2 349から	揚子江諸分圖第 2			501
502		ヘ37-2 405から	揚子江諸分圖第 3		カ42-7	502
503		シ37-6	揚子江諸分圖第 4	シ40-10		503
504					ヘ42-7 348から	揚子江諸分圖第 5
505			シ38-5 翻陽湖		カ42-10	505
506		シ37-6	湘江第 1		カ41-10	506
507		シ37-6	湘江第 2		ダ41-12	507
508	シ36-5	モツオ島	至ルツノ角	シ37-7 沅水第 1	ダ39-10	508
509	シ33-10	ココラン上陸所		シ37-7 沅水第 2	ダ39-6	509
510		シ37-7	湘江諸分圖			510
511		ヘ37-6 344から	洞庭湖及湘江	カ39-6	ダ41-10	511
512				シ39-6		沅江第 3
513	シ36-5	マラムバヤ浦		ヘ751へ	シ39-7	サンデー島至南嘴
514	シ36-2	バラワン島		ヘ752へ	シ39-8	岳州至南嘴
515	シ35-7	プリンセサ墨		ヘ756へ	シ39-7	岳州至南嘴
516				ヘ38-3 305から		ポツダム灣
517	シ35-7	ウルガン灣				
518		シ36-5	セント、ボールス灣至エマーゼンシー角			
519			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			
520	シ35-12	菲律賓諸島諸墨		ヘ665へ		
521		シ36-4	スピク港及シラングイン港			
522			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			
523	シ36-4	菲律賓諸島諸港第 3		ヘ657へ		
524			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			
525a		ヘ37-9 301. 1から	支那海北部第 1	カ37-12		525a
525b		ヘ37-9 301. 2から	支那海北部第 2	カ38-3	支那海北部東區	525b
526						
527		シ37-12	廣州灣附近		ダ40-12	526
528		シ36-5	菲律賓諸島諸港第 4	ヘ658へ		527
529a				ヘ38-5	シ39-3	マツシエー河
529b		シ37-10	支那海南部東區	ヘ38-7 161から		電白港
530				ヘ38-1 52から		ブラタス礁脈及島
531	シ35-12	ブジャガ灣		ヘ37-6 731から		シブコ灣北岸
532				シ37-11		デント港
533				シ37-11		ボンガオ錨地
534	シ36-12	サンバド	灣至リブカン諸島	シ37-12	ボルネオ東岸諸灣及諸錨地	ダ38-3
535				シ37-11		カガヤンスル及附近諸島
536	シ36-10	セブ港		ト38-1		
537	シ36-7	パナン至モツオ島				
538		シ37-12	サンダカン港		カ41-11	537
539	シ36-7	チラムタ	港至ツラデンギ角			538
540		シ37-11	シラム港			539
541		シ37-12	ガヤ灣至サンダカン港		ダ41-12	540
542		シ37-12	タガナク島至タウィ、タウィ島			541
543				シ39-8		ジェッセルトン港
544			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			542
545			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			543
546			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			544
547			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			545
548			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			546
549		シ37-7	バシラン海峽		ダ44-6	547
550			(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			548

第12表 海図番号 551~600

明治	35	(1905)	40	(1910)	44		
551		シ37-12	パラムバンガン島及バラバック島諸錨地		551		
552		シ36-5	タムベラン群島		552		
553	シ34-10	カ39-9	ミットフォード港		553		
554		シ37-5	スル叢島及ボルネオ北岸		554		
555		シ37-2	カムラン灣及ブンコ灣		555		
556		シ37-2	シブコ灣		556		
557		シ37-7	ランカヤン至サンダカン港		557		
558		シ37-5	ダーベル灣		558		
559				シ43-3	マルヅ灣	559	
560		シ37-5	マラフレ島至ランカヤン	シ41-10	560		
561		シ37-6	婆羅北西岸第 3		561		
562		シ37-6	婆羅北西岸第 4		562		
563	シ34-10	カ42-9	クダト港		婆羅ネオ諸分圖、クダト港	563	
564		シ37-6	婆羅北西岸第 5		564		
565	シ34-10		アンボン灣		565		
566	シ34-11		婆羅北西岸第 8		566		
567	シ34-7		ルット角至ガヤ頭		567		
568	シ34-10	シ39-6	婆羅北西岸第 7	シ41-10	シ41-8	ダンビル角至ガヤ頭	568
569	シ34-10		ブルニ河		カ44-2	569	
570		シ36-11	ムアラ港及ブルニ河附近		570		
571	シ34-10		ビクトリア港		571		
572	シ34-10	シ35-7	ラブアン島	カ40-6	572		
573	シ34-10	シ38-6	婆羅北西岸第 6	シ41-3	573		
574	シ34-12		サラワク河		574		
575				*	575		
576		シ35-12	婆羅北西岸第 2		シ43-1	576	
577	シ34-12		ローヤリスト島		シ43-5	ナツナ諸島諸分圖	577
578		シ35-12	婆羅北西岸第 1	シ39-7	カ43-2	バユング角至ダツ角	578
579		シ35-12	ナツナ列島		カ43-4	北ナツナ諸島	579
580	シ34-12		アナムバ列島北東群島		580		
581		シ35-3	アナムバ列島		581		
582		シ37-6	シブコ灣西北部		582		
583		シ36-3	ジャバ諸分圖	シ42-10	シ43-4	ポンチアナク至バユング角、マサ、チガ島至ポンチアナク	583
584				610へ	シ39-10	(この番号はこの期間には一般海図には使用されなかったか)	584
585				シ36-11	シ39-9	バンカ海峡至新嘉坡	585
586		シ38-6	バンカ海峡		586		
587		シ38-6	カリマタ海峡	シ41-10	587		
588	シ34-9	シ37-8	バンカ及ガスバル海峡		588		
589		シ38-5	バンカ海峡	シ37-10	シ38-10	バンカ海峡附近	589
590		シ35-10	バンカ海峡南口		シ41-7	590	
591		シ37-12	ガスバル海峡		カ41-6	591	
592		シ37-12	サンダ海峡及附近		592		
593	シ34-10		テロク、ベツン		593		
594				シ40-6	シ40-6	タンジョン、バンドン附近	594
595	シ34-6		蘇麻答臘西岸諸分圖		595		
596	シ34-10		蘇麻答臘西岸第 2		603へ	シ40-11	596
597	シ34-6		コニンジン灣及ベタン泊地		597		
598	シ34-9	シ37-12	マサン角至インドラブラ角		598		
599	シ34-5		蘇麻答臘西岸諸錨地		599		
600				*	44	600	

第13表 海図番号 601~650

明治	35	40	(1910)	44	明治
601	シ35-10 蘇麻答臘諸分圖	シ41-12 スマトラ北西岸諸分圖			601
602	シ35-2 蘇麻答臘西岸第1	シ40-1			602
603	シ35-4 蘇麻答臘西岸諸錨地諸分圖	シ40-7 40-9 597から スマトラ西岸第2		シ44-5	603
604		シ40-5 603から スマトラ西岸諸錨地諸分圖			604
605		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			605
606		シ40-1 スマトラ西岸諸錨地第2			606
607		シ40-2 601から スマトラ諸分圖			607
608		シ40-10 スマトラ南岸諸分圖			608
609	シ37-12 東叢島西部	シ39-8 584から ジャバ諸分圖		シ43-8	609
610	シ36-6 バタビア泊地			シ43-11	610
611		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			611
612		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			612
613	シ37-4 ジャバ南岸諸分圖	シ39-10			613
614	シ37-12 シロロ島諸錨地	シ39-10			614
615		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			615
616		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			616
617		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			617
618	シ37-8 420から アチェ頭至ダイヤモンド角	シ40-5 413から ダイヤモンド角至ベララ島			618
619	シ37-11 麻刺加海峡				619
620	シ37-8 492から 麻刺加海峡諸錨地			シ44-9	620
621	シ37-9 399から ラチャド岬至新嘉坡				621
622	シ37-4 499から ラチャド岬至ウンタン島	シ37-12 ピラミッド浅灘至ベサル島			622
623		シ40-4 新嘉坡近海			623
624	シ37-9 400から 新嘉坡泊地	シ41-2		シ42-9	624
625		*			625
626		シ38-1 402から 新嘉坡本海峡		シ41-6 395から ケッペル港(新港)	626
627		シ40-12		シ41-4	627
628		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			628
629	シ38-1 スマトラ				629
630		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			630
631		シ38-1 スマトラ			631
632		シ40-5 アル溝			632
633		シ44-12 クラン海峡北口附近			633
634	シ38-2 489から スウェッテンハム港			シ43-7	634
635	シ38-6 クラン海峡及附近			シ44-4	635
636		シ41-1 487から ベララ島至ラチャド岬			636
637		シ43-9 486から ベナン港及附近			637
638		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			638
639		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			639
640		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			640
641		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			641
642				シ43-3 ベナン港	642
643		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			643
644		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			644
645	シ37-10 381から 呂宋島北部	シ40-6		シ41-9	645
646	シ37-7 171から 巴旦列島				646
647	シ37-10 389から マニラ灣	シ40-6 馬尼刺灣			647
648		シ39-8 馬尼刺及カビテ錨地		シ41-9	648
649		シ39-8 サンタ、クルーズ港		シ43-10	649
650	シ38-11 呂宋島南東岸諸分圖				650

第14表 海図番号 651~700

明治	35	(1905)	40	(1910)	44	明治
651		呂宋島西岸諸諸地				651
652		呂宋島至マスバテ島				652
653		菲律實諸島諸分圖第1	ダ38-3	△△△△△	△41-3	呂宋島北西岸諸分圖
654		菲律實諸島諸分圖第2				654
655		菲律實諸島諸港第1	カ40-12			655
656		菲律實諸島諸港第2				656
657		菲律實諸島諸港第3			カ43-10	657
658		菲律實諸島諸港第4		ダ41-4	ダ42-4	658
659		菲律實諸島諸港第5				659
660		菲律實諸島諸港第6		△41-12	△41-10	イロイロ海峡
661		菲律實諸島諸港第7	ダ39-10			ダ43-12
662		菲律實諸島諸港第8	ダ37-12	ダ40-1	ダ41-7	ダ41-12
663		菲律實諸島諸地第1				ダ43-1
664		菲律實諸島諸地第2				ダ43-11
665		セブ島及マクタン島、セブ港及附近				カ44-3
666		ニュー、ギニー北西部附近諸島諸地		△41-5	△41-12	ルセナ錨地、バグビラオ灣及ラグイマノク港
667		ボルネオ及ニュー、ギニー間諸分圖		△41-5	△41-12	
668		菲律實諸島及近海				カ44-5
669		セミララ、イリン及アマロン島	ダ40-5			
670		ニン灣及マンダオン港				
671		ミンダナオ及セレベス間諸地				
672		セント、ベルナルチノ海峡及ミンドロ海峡間	ダ38-3	ダ40-10		カ42-4
673		セレベス海東部	ダ40-7			カ43-3
674		セレベス島北部諸分圖			カ41-5	カ43-12
675		セレベス島北部諸分圖				カ41-5
676		セレベス島東部諸分圖				カ42-1
677		セレベス東岸諸地	△40-12	△41-4	カ68カ5	ボルネオ及ニュー、ギニー間諸分圖
678		スルー名ミンドロ海東部	ダ38-1	ダ39-11		ダ44-10
679		ミンダナオ北岸諸分圖				
680		サンバド口灣至リブカン諸島	ダ39-12			
681		モツオ島至ルツノ角				
682		ブジャガ灣				
683		ルツノ角至ドンド角				
684		スル叢島	ダ38-2			カ44-7
685		スル叢島諸港				
686		リブカン諸島至ナロ灣				
687		ソマンキラス灣				
688		マカッサル海峡北部	ダ40-2		ダ41-2	
689		ムルシエラゴス灣				
690		ハルセイ港				
691		サン、ベルナルチノ海峡及附近				
692		バタン島至サン、ベルナルチノ島及ヒマガン灣至イナモク				
693		スアル港及カバリチアン灣附近				
694		ボリナオ港及附近				
695		カビテ港				
696		菲律實諸島諸分圖第3				
697		セサジャブ及ブルンガン河				
698		菲律實諸島諸分圖第4				
699		マシシロク港、マタルビ港及バラウィグ灣				
700						

(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)

第15表 海図番号 701~750

明治 35	(1905)	40	(1910)	44	明治
701		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			701
702		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			702
703	△37-6 445から	ファン、ラン灣至安南海灣	△41-4		703
704	△37-6 446から	柴棍河至カム、ラン灣	△41-5		704
705	△37-6 447から	キ、キク灣及附近沿岸			705
706		△38-1 ファン、ラン灣			706
707		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			707
708		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			708
709		△39-10 309から	安南海灣		709
710			△41-2 シェン、ムン至トラ、コ島	△41-6	710
711		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			711
712		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			712
713		△39-11 安南沿岸諸分圖			713
714	△37-12	ラク河至カオ、タオ諸島	△41-11		714
715		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			715
716	△37-12 469から	カム、ラン灣	△41-7		716
717			△40-10 484から	柴棍河一名ドン、ナイ河附近	717
718	△37-12	柴棍河一名ドン、ナイ河			718
719			△43-4 440から	マクスフィールド堆	719
720		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			720
721		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			721
722		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			722
723		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			723
724		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			724
725		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			725
726		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			726
727		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			727
728		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			728
729			△41-4 454から	海防附近	729
730		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			730
731	△37-2	シブコ灣北岸	△38-6 437から	暹羅海灣第 1	731
732	△38-6 436から	暹羅海灣第 2			732
733	△38-6 472から	暹羅海灣第 3	△41-11		733
734	△38-6 434から	暹羅海灣第 4	△41-7		734
735	△38-6 433から	暹羅海灣第 5			735
736	△38-6 471から	暹羅海灣諸分圖			736
737	△38-6 477から	暹羅海灣			737
738	△37-12 473から	盤谷河一名湘南河			738
739	△38-8 474から	コー、シチャン港			739
740	△38-8 475から	ラコン泊地至タネ角			740
741	△38-8 476から	カバス島至ラコン泊地			741
742		△40-7 盤谷港			742
743	△37-12	馬來半島東岸諸分圖	△41-9 470から	トロン島及カムプト附近	743
744	△37-6	ブケト港			744
745			△42-12	暹羅海灣諸分圖	745
746					746
747		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			747
748	△36-12	ジャバ島西部		△44-1	748
749		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			749
750		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			750

第16表 海図番号 751~804

明治 35	(1905)	40	(1910)	44	明治
751		*			751
752		△39-7 513から			752
753		△39-7 514から		744-6	753
754	△37-3	マラヌット灣及ナコダ灣			754
755		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			755
756	△38-1 515から	プリンセサ港			756
757		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			757
758		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			758
759		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			759
760		(この番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			760
761	△37-12	バッセイン河至ベナン島		744-4	761
762	△38-1	コロンジ島至ホワイト角			762
763	△37-12	ラングーン河及附近	740-11		763
764	△38-1	イラワチ河第 1			764
765	△37-12	イラワチ河第 2			765
766	△37-12	サルウィン河			766
767	△37-12	モルメーン河及附近			767
768	△37-12	モルメーン港			768
769	△37-12	エー河附近			769
770	△37-12	ホワイト角至メルギ			770
771	△37-12	マルタバン海岸諸分圖			771
772a	△37-12	メルギ叢島北部	741-10		772a
772b	△37-12	メルギ叢島南部		744-4	772b
773	△38-1	メルギ港附近			773
774	△38-1	メルギ港			774
775	△37-12	ヘースチングス及附近諸島			775
776	△37-12	サエル島至麻刺加海峡西口ランカウイ島			776
777	△39-5	モルメーン河至エー河			777
778	△37-12	タボイ河			778
779	△39-6	ヒンゼ灣			779
780	△39-9	ベンチンク海峡			780
781~800		(これらの番号はこの期間には一般海図には使われなかったか)			781~800
801	△37-8	アナヅイリ灣	△39-2		801
802	△37-8	セニアビン海峡	△39-2		802
803	△37-8	ベーリング海西岸諸分圖	△39-2		803
804	△38-1	太平洋西部	△39-2		804

第17表 雑図参考図 (つづき)

明治	(1900)	35	(1905)	40	(1910)	44	明治
乙 2							乙 2
乙 3							乙 3
乙 4							乙 4
乙 5							乙 5
乙 7							乙 7
丙 1							丙 1
丙 2							丙 2
丙 3							丙 3
丙 4							丙 4
これらの番号は以後は雑図参考図には使われなかったか							
1001							1001
1002							1002
1003							1003
1004							1004
1005							1005
1006							1006
1007							1007
1008							1008
1009							1009
1010							1010
1011							1011
1012							1012
1013							1013
1014							1014
1015							1015
1016							1016
1017							1017
1018							1018
1019							1019
1020							1020
1021							1021